

射水市教育委員会 6 月定例会会議録

開会日時 平成 26 年 6 月 27 日 (金)

開会 午前 10 時

閉会 午前 11 時 25 分

会議場所 下庁舎 201 会議室

出席委員

眞岸委員長、大代委員、織田委員、結城教育長

会議事件説明員

橋詰教育次長、亀田教育次長、尾山学校教育課長、島田生涯学習・スポーツ課長、
沢田教育センター所長、島崎中央図書館長、原田新湊博物館長、杉高学校教育課主幹、高橋生
涯学習・スポーツ課主幹、塩谷学校教育課長補佐

傍聴人数 なし

会議の要旨

午後 10 時、委員長が開会を宣し議事に入った。

1 会議録の承認

承認された。

2 教育長の報告

(1) 6 月定例会開催状況について

教育長及び教育次長が資料 1 に基づき説明した。

3 各課等の連絡事項及び報告事項

(1) 平成 27 年度 射水市重点事業 [国、県要望]

教育次長が資料 2 に基づき説明した。

(2) 射水市学力向上委員会について

教育次長が資料 3 に基づき説明した。

(3) 射水市マイスター教員について

教育次長が資料 4 に基づき説明した。

(4) 平成 26 年度 特色ある学校づくり事業交付金 (提案型) の交付対象事業について

学校教育課長が資料 5 に基づき説明した。

(5) 第 1 回射水市教育振興基本計画策定委員会について

学校教育課長が会議概要を説明した。

(6) 平成 26 年度 研修事業計画について

教育センター所長が資料 6 に基づき説明した。

(7) 平成 26 年度 射水市教育行政要覧について

学校教育課長補佐が資料 7 に基づき説明した。

(8) 教育委員会行事予定

学校教育課長補佐が資料 8 に基づき説明した。

6 その他

(1) 次回教育委員会の開催日時について

日時・場所は、7月30日(水)午前10時から下庁舎で開催

7 議事

(1) 射水市学力向上委員会について

[委員] 会議内容が、各校取組調査・公表資料の分析検討・次年度への取組等とある。現状を知り今後に生かす為の大事な会議であると思う。

同時に危惧されることがある。他市において、春の「全国学力・学習状況調査」に向け年間通して過去問プリント学習が毎日されている学校がある。調査時に点数が取ればよいのかと疑問に思う。児童生徒が自らの学ぶ意欲で学力が向上できる方向性を見つける「射水市学力向上委員会」であって欲しい。そして、校区内小中連携での学力向上を目指して欲しいと切に願う。

また、授業理解の手助けになる電子機器(PC,アイパッドなど)を使い子どもたちの興味関心を深め、学力向上につなげている学校の取組を視察したり、市外県外の先進的な取組で成果を上げている学校の情報収集や視察なども検討されることを望む。富山市は電子機器メーカーと提携しモデル校にて試験的授業を開催している。金沢市立泉中学校は金沢大学と提携し、電子機器を使い授業したことで学力調査での得点が上がったという報告が秋頃に金沢大学から出されるとの情報を聞いた。確認も含め、情報収集(HP等)されてはどうか。

[事務局] 学力学習状況調査の問題は優れた研究者の方が作られたものであり、この問題に触れることは子どもたちや教員にとっても良い機会になると考える。学力状況調査の訓練として使うことは良いとは思っていない。A 問題(主として知識)と B 問題(主として活用)があり、市としても B 問題に力を入れているが、何を考えなければいけないかを授業の中で深く掘り下げるために過去問題を活用することは良いことだと考える。学力調査の用紙形式に慣れていないのも事実であり、これになれるということも大事だと考える。

[委員] 調査対象校は、今は悉皆だが、以前は抽出の時もあった。対象の有無にかかわらず、当該試験に取り組み、教員に採点させた。子どもたちの学習状況の把握、ということが聞かれているのか等問題の分析をお願いしてきた。また、子どもたちの自尊感情を高めるといった視点で、子どもたちが、勉強がわかるようになったと思えるような学習指導に取り組むようお願いしてきた。

本市では、点数さえとれば良いという指導はしてほしくない。ただテストの結果を市民が知りたいということもあるので、市としての結果は公表することに決めた。学校には各学校の結果を公表して学校間の競争を促すものではないということ。また、それぞれの学校は自校の学力の状況の説明を求められれば、きちんと説明できるように準備をしなければならぬ旨、伝えてきている。

[委員] 市の教育はどうなっているのかと市民から聞かれれば、その点数で判断するしかないところもあることから、学力テストの対策も行う必要があると考える。

[委員] 全国学力・学習状況調査は個別に順位付けがなされるのか。子どもの成績は、順位や偏差値のようなものがないとわからない。試験の点数を上げるには、経験値が必要。過去問題を多くやり、問題が解けるようになれば、初めて見る問題形式に戸惑って普段の実力が発揮できなかったということは少ないと思う。

[事務局] 学力調査であるので、何かの合否を決めるものではない。学校としては、現状の子どもたちの力や、自分たちの教え方がどうだったのか、どこを改善していけば良いかを考えるためのものであるが、特殊な問題形式なので、普段慣れていなくて本来の力が出せない場合もあることから、経験させておくのは良いことだと考えるが、訓練までするのはいかかかと考える。

[委員] テストの考え方には、集団がうまく授業がわかったかというものど一人一人がどれだけ点数がとれるかの受験対策といったものの2通りがある。義務教育の段階では前者のテストが行われていた。学力学習状況調査においても、集団に対し学校がどうやって教育しているかの効果を調べるのが本来の目的である。

[委員] 学力・学習調査がどういった目的で実施されているのかをきちんと示しておく必要がある。また、点数が公表されれば一喜一憂するのが人間の感情であり、学力向上委員会では確かな学力の向上のために、学習意欲をどう高めていくかをしっかり議論して欲しい。

(2) 射水市マイスター教員について

[委員] とても良い事業だと思う。教員の資質向上は子どもたちの学力や興味関心が高まる。しかし、認定されたマイスター教員は、目的や役割の為に負担を強いられないか。

自分の学校では担任であったり、校内の役割の上に加算された支援や講師をすることへの十分な配慮はなされるのか。マイスター教員に任命される事への報奨について明確なものがでていないが、何か検討されているのか

最後に、このように優秀な教員の授業を、子ども教育委員も授業参観できる機会があればよいと考える。

[事務局] 授業公開については、極力負担にならないようにする。マイスター教員には特別な授業を設定し、公開するようなことはないようにする。通常の授業の中で対応し、授業公開のための指導案を作成することはないようにする。報償については、県の場合、書籍や出張経費があるが、市はマイスター教員に名刺を配布する。

役割は書いてあるが、マイスターの一生懸命さや効果を上げている授業を見て、周りの教員がそれに憧れ、そのレベルに達したいと思ってもらうことが必要と考える。マイスターが市全体に足を運ぶのは負担が大きいのので、まず学校に見に来てもらう。自校の教師が憧れに思う、そして他校の教師が相談することができるということが大事と考える。一度にたくさんのことを期待して重荷になることは避けたいと考える。

[委員] 予備校の授業内容を見て刺激を受けた教師が以前周りにいた。学校の中にいると、他の授業はなかなか見れないことが多い。このような取組を進めることで、教員同士互いに刺激を受ける。良い授業をすれば、子どもたちも頑張るようになってくると思う。

子どもたちから授業評価を取ることはあるのか。子どもたちから見た評価は自分が思っているのとは違い、そこから改善点も見つけることができる。授業を受ける立場の声を聞くことで、教師も成長・進歩すると思う。

[事務局] 評価を実施している教師もいる。授業を大切にしている教師、伸びようとしている教師は、子どもたちから評価を取ったり、テストの結果を分析し、至らぬ点、うまくいった点を確認し、自分で評価して次の指導に生かしているように思う。

[委員] マイスター教員の周知はしているのか

[事務局] 学校便りなどを通じて、子供たち等にも伝えていきたい。

2学期の教育委員会学校訪問には、マイスターの授業を見ることも考えていく。

(3)平成26年度 特色ある学校づくり事業交付金(提案型)の交付対象事業について

[委員] 学校が創意工夫を凝らした取組を考えることは良いこと。学校は補助金を期待しているところもあるので、一律配分の部分も残されており、メリハリをつけているのだと思う。

[委員] 事業的には継続するものもあるのか。

[事務局] 平成27年10月開催の全国海づくり大会に関連した特色ある事業に取り組む学校もあり、次年度以降も続くだろうと考えられる。

(4)第1回射水市教育振興基本計画策定委員会について

[委員] 子どもたちが何か起こすと、すぐ学校は何をしているのかと言われがちだが、会議の主な意見にもあったように、学校と家庭、地域が一体となって関わっていくことが大事である。「親の思うとおりに子は育たぬが、親のするとおりに子は育つ」と言うが、教師と生徒の関係にしても同じだと思う。親も教師もしっかりすれば、地域もよくなり、子どもたちも良く育つと考える。

[委員] 家庭用学習ノートカバーとは、どのようなものか。

[事務局] 子どもたちの家庭学習の時間を増やすための工夫の一つとして、校長会と教育センターで話し合い作成した。学習に当たったの決まりやめあてを書く。カバーにはさみ込むものは各学校で考えている。

[委員] 子どもたちは、高学年になればノートにいろいろ調べた情報を貼ったり書いたりして、あつという間にノートがいっぱいになり何冊にもなる。学習内容を教師がしっかり見てコメントすることも重要と思う。

学力向上のために家庭学習は大事、いろいろ工夫を試すことが重要である。低学年児童はこのノートカバーをきっかけに取り組む子もいると思う。

[事務局] 新聞に掲載されていたが秋田には家庭学習ノートが市販されており、一定の習慣づけがなされれば、家庭学習しないと落ち着かない、眠れない子もいるとのこと。1年生のうちから家庭学習が習慣化されていけば、家庭学習が大事だということがわかると思う。

午前11時25分、議事等が終了したので委員長が閉会を宣した。